

会議録

◇詳細－長期計画担当課 電話03-3981-1111 内線2181・2

附属機関又は 会議体の名称	第6回 豊島区基本構想審議会第1部会	
事務局（担当課）	長期計画担当課	
開催日時	平成16年7月21日（水）14:00～16:00	
開催場所	豊島区議員協議会室	
出席者	委員	金井利之（東京大学助教授）、宮崎牧子（大正大学助教授）、伊藤榮洪（教師）、今村勝行（収入役）、二ノ宮富枝（教育長）、小林ひろみ（区議会議員）、木下広（区議会議員）、本橋弘隆（区議会議員） 以上出席者8名（敬称略）、欠席者3名
	幹事	政策経営部企画課長、同財政課長、同行政経営課長、同広報課長
	その他	政策経営部長、総務部長、区民部長、保健福祉部長、池袋保健所長、子ども家庭部長、教育委員会事務局次長、区議会事務局長、施設再構築・活用担当課長、区民活動推進課長、管理調整課長、子ども課長、教育改革推進課長、指導室長
公開の可否	公開 傍聴人 1人	
非公開・一部公開の場合は、その理由		
会議次第	案件 1. 開会 2. 議事 (1) としま戦略プランについて (2) その他	

1. 開会

事務局： 只今より豊島区基本構想審議会第1部会第6回目を開会する。本日、恒吉委員、水島委員より欠席との連絡をいただいている。また本日、傍聴希望者が1名出席されている。それでは、部会長お願いします。

2. 議事

- (1) としま戦略プランについて
- (2) その他

金井部会長： 本日はご多忙のところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます

す。早速本日の議事に入るが、本日の議事は、「(1) (仮称) としま戦略プランについて」、「(2) その他」となっている。なお、本日は高野区長がオブザーバーとして出席されているので、最後に一言お願いすることになると考えている。これまで審議会全体会では「全ての体系に共通する指針」と「分野別体系」について審議をいただいた。今回の部会ではさらに細かい話に入るということもあるが、その中で基本計画期間内に優先的に進める施策である「(仮称) としま戦略プラン」を事務局側として考えているので、まずこれについて審議をお願いしたい。当初は、分野別での計画事業について審議をお願いする予定であったが、いろいろ審議の都合があり、こちらに予定を変更させていただき「(仮称) としま戦略プラン」の審議をお願いしたい。

「としま戦略プラン」の審議については、第1部会担当分野だけでなく、第2部会の所掌の範囲も含め、トータルに審議・意見をいただければと考えている。本日の部会での各意見、あるいは意見集約等に関しては、後ほど審議会全体会に報告し、改めて審議会全体として取りまとめをすることを想定している。それでは、早速「(仮称) としま戦略プラン」の位置づけと、その背景などについて、まず事務局より説明をいただく。

事務局： 〈資料 I-6-I、I-6-2、I-6-3 に基づき説明〉

金井部会長： それでは、「(仮称) としま戦略プラン」について審議をお願いしたい。事務局からの説明は議論のきっかけに過ぎないので、事務局の考え方にとらわれず、何を戦略プランに盛り込むべきかということについて意見を伺えばと考えている。本日は、戦略的なプラン、あるいはプロジェクトをまとめていくという意味もあるので、なるべく多くの委員から最初に様々な思い、考えを伺い、その後、部会としてこれだけは優先して進めるべき事項だと、戦略的に非常に重要だという共通認識がなされれば、それについては部会案として審議会全体会に報告していくことになるかと考えている。それ以外に様々な意見があったという場合には、各委員からの意見ということで全体会に報告をしていくこととなる。まず、各委員からいろいろ話を伺いたいと考えているが、突然のお願いである上に、内容が漠としているので、まず私から議論の整理も含めて事務局に伺いたい。この戦略プランに盛り込むものは、具体的な計画事業という細かいものを特出しするというイメージでよろしいのか。つまり、優先的にこれだけは特にお願したいというイメージで捉えているのか。それとも、全体として都市再生を一生懸命やるといった戦略として立てるのか、どのようなイメージを持っているのか。

事務局： 本日、「計画事業(想定)一覧」を提出しているが、単一の計画事業を1つということではなく、事業の塊、施策レベルであり、部会長から指摘にあったようにプロジェクト的なものを戦略プランとして位置づけていくという

のが事務局の考えである。

金井部会長： 資料Ⅰ－６－３でいただいた計画事業という細かい話ではなく、もう少し上のレベル、左側の体系の施策レベルで、何を抽出ししていくということか。それとも、この施策体系とは別のまとめ方でもう１つ重点的なプランにするということか。

事務局： 事務局としては、施策レベルぐらいでのとりまとめを想定している。

金井部会長： 体系にある①、②、③レベルか。

事務局： あるいは、その下の１、２、３レベルぐらいと想定している。今回初めて審議をいただく部分もあるので、事務事業レベル、あるいはもう少し上の施策レベル、政策レベル、いろいろな意見があると思われるが、その部分の統一については最終的に全体会のレベルに提案する際に調整したいと考えている。

金井部会長： それでは、大きなものから小さなものまで、とりあえず重要だと思うものを考えていくということではどうか。それでは、そのようなイメージで、重視したい、優先したい事項について意見をいただきたい。初めての審議項目のため、すべての委員から話をいただきたいので、今までこの会は指名して順番に当てるといのは実施してこなかったが、本日は趣向を変え、一通り意見を伺いたい。それでは、F委員から何か優先的に戦略プランとして盛り込むべきものは何かについて意見ををお願いしたい。

F委員： 資料「としま戦略プラン」にある、「住み続けたいまち」を特に大切にしていきたい。そのために、やはりファミリー世帯が豊島に長く住み続けられるようにしていくということがとても重要なことである。ファミリー世帯が長く住み続けるということは、高齢者になっても豊島にずっと住み続けるということにつながっていく。そういう意味では福祉に関する事業について力を入れていただくということと、やはり地域の中で住民が相互に支え合っていくような地域コミュニティをどう行政が支えていくか、支援していくことができるかということについて取り組んでいただきたい。具体的な施策を挙げることはできないが、これらの分野に力を入れていっていただけないのではないか。

H委員： 資料Ⅰ－６－１でいえば、掲げるテーマは全くそのとおりであると考えている。しかし、今までの審議の中での自分を反省して、あるいは今までの審議の方向で反省しなければいけないと考えているのが、「としまらしさ」を創出するという何を何回か私も発言してきたが、本当に実りあるものにするのができたかということである。「としまらしさ」の創出というのは、豊島区に住みたい、豊島区で住みたいという世帯を集めることにつながるが、その柱の１つはどうしても教育の充実であると私は考えている。やはりファ

ミリー世帯がここに落ち着いて住めるためには、学校が統廃合されて、一応大体のところで大筋まとまりつつあるところであるが、品川区では、きわめて刺激的、挑戦的な教育の改革プランを示しており、また、文京区のように明確には示していないが、落ち着いた文京区らしさにおいて、ファミリー世帯を惹きつけているところもある。豊島区が教育の中で、どうしたらファミリー世帯を惹きつけるに足るプロパガンダを実施できるとか、その具体的な方向を探るべきではないか。そのために何をどうすればいいのか、そこを考えたいと思う。

金井部会長： ありがとうございます。S委員に一言お願いしたい。

S委員： 基本計画は、基本構想を実現していく施策の体系化ということが一般的な話である。「としま戦略プラン」は、今回の基本計画の中に含めていくということであるので、受けとめ方としては、前回の参考資料にあったように、優先的に進めていく施策をプロジェクトしてまとめるという点と、それから基本政策の各分野の体系をまたぐ施策をプロジェクトとしてまとめるということとで説明された。これらの方向性はよいと考えているが、戦略という言葉を使うとすれば、それは大局的な方策のことではないか。基本計画をいかに効果的に進めるかということである。分野ごとに施策、計画事業が位置づけられ、早い話がそれを進めていけば基本構想に通じることになるが、そうではなく、優先的に進めていくことで効果的な進め方を実現できる方策をまとめるべきではないか。そうすると、本日の資料でキーワードとして盛り込まれている「協働」や「行財政改革」があるが、これらは全ての体系を貫く指針に盛り込まれているので、それをキーワードに使って戦略プランとして位置づけてもよいのではないか。例えば、行政改革と行うとどうなるか。例えば、行財政改革を確立しなければ、財源を確保できずに、基本計画は推進できないといったものである。そういうものを優先的に取り組むことが戦略なのではないか。ただし、福祉や教育を戦略プランの中で実施するということになると、これらは基本計画の各分野体系にそれぞれ位置づけているので、最初に、戦略プランというのはどういう位置づけで、何を目的とするものなのかを共通認識にしておくべきではないか。

金井部会長： ありがとうございます。今の意見はきわめて重要な問題を指摘している。一通り各委員の意見を伺った後に検討したいテーマである。続いて、T委員からお願いしたい。

T委員： 先ほど部会長から、「としま戦略プラン」はどのようなイメージになるのかとの指摘があった。また、S委員からも戦略プランの位置づけをどうすべきかという指摘があったが、「戦略」というイメージがこれまでにない括り方であるので、少しわかりにくいという実感がある。例えば、事務局資料にあ

るように「価値あるまち」「住み続けたいまち」「住みたいまち」を創造するといった場合に、これまで本区が取り組んできたものをさらに充実・発展させるべきもの、また、欠けていたので新たに実施しなければならないものをきちんと整理しなければ、選び出すのが難しいのではないか。分野別体系にはさまざまな政策・施策、計画事業の案等が記載されているが、戦略プランが何なのかといったときに、施策そのものになる場合もあり、また、例えばH委員が提案されたような子どもたちの教育を進めていくというある程度まとまりのあるものとなる場合もある。しかし、その教育を進めていくときには、どういう教育を進めようとしているのかを周知する必要があるが、学校の考えていることや地域のできることがあまり今まで一般に見えてきていないので、まず、プロパガンダが大事であると考えている。その中で、教育の中身そのものを載せるという場合もあれば、教育の事業を進める上での足りない部分を戦略プランのプロジェクトとして載せる場合もあり、なかなか整理が難しい気がする。そこで、まずはこの部会でどのように載せていくかなどについて意見をいただき、中身の提示、位置づけをはっきりさせていかなければいけないと考えている。

Q委員： 私も「としま戦略プラン」がどういうものを指しているのかがいまだにはっきりわからない。何を優先的に進めるべきかについては、私が第1部会で福祉や教育などを論議してきたこともあるので、各委員から出たような、住み続けられるまち、ファミリー世帯が定住できるまちを作っていくという点は同感である。ただ、先ほどS委員から指摘があったように、これまで基本計画の構成の考え方には、分野別体系が縦にあり、横に全ての体系に関する共通指針があった。その上流に「としま戦略プラン」があるとするれば、私が勝手に想像していたのは、財政上の問題から、実施できる施策を限定し、その上で何を優先するのかという話であったが、各委員の意見は何を優先すべきかということに絞られているのでそうでないと理解した。しかし、そうであるとするならば、「戦略プラン」が何を指しているのかが極めて曖昧である。例えば、第2部会の議論では、「戦略プラン」に盛り込むべき題材として、「池袋のまちづくり」などかなり具体的なものがでてくるかもしれない。それについては、第2部会の委員の意見を伺わなければ、ここで議論しても煮詰まらないのではないか。私は、「戦略プラン」はこれまでの基本計画の体系が不十分で、まとまりをもって進めていくことが困難であると想定されるものがあって初めて検討するものであると考えているので、「としま戦略プラン」が必要であるという理由を事務局はどのように考えているのか。

金井部会長： その議論については後ほどお願いしたい。とりあえずQ委員の意見は伺った。では、P委員からお願いしたい。

- P委員：** 中長期的な豊島区の今後のあるべき方向を基本構想審議会ですっかり議論した後、それに伴っておおむね10年くらいのスパンの基本計画をある程度財源的な方向性も含めた上で策定するというで議論してきているので、本日突然「としま戦略プラン」が議題になっていることが理解できない。私は基本計画が確定すれば、あとは計画事業をしっかりと議論していけばそれでよいと考えている。豊島区の年間の予算は一般会計で900億円前後、特別会計を入れると1,000億円程度であるが、この予算の使い方の基本的な方向を決めるために、基本構想、基本計画の審議をしてきたつもりである。その基本構想、基本計画の流れと、今回事務局から提出された「としま戦略プラン」とは性格がどのように異なるのか。年間1,000億円程度の豊島区の予算の中で100億円ぐらいを集中的に10年間で実施するものを議論するのか、それとも、今後10年間、何を中心に予算を使っていくのかを議論するのか。この辺りがよくわからないので説明をいただいた後で、意見を申し上げたい。
- N委員：** 「(仮称) としま戦略プラン」の資料を拝見し、事務局の簡単な説明を伺ったが、まさに高野区政の特色、オリジナリティーを出せるものがようやく出てきたと感じている。加藤区政からのきわめて厳しい状況を高野区政は引き継ぎ、高野区政はオリジナリティーを出すことができずに本日まで来ていると見受けられる。数々の目玉施策は拝見しているが、高野区政の骨太の政策は、残念ながら財政というハードルがあり、発揮できずにいる。その中で、この「(仮称) としま戦略プラン」において初めて盛り込まれる余地があると私は期待している。平成11年に高野区政になって、やりたいこともやれずに来て、ここで初めて基本構想、基本計画の改訂し、さらにその中で焦点の絞った形で「戦略プラン」の構築するのであるから、ぜひダイナミックに、何も恐れず、ひるまず、区長と部局においてプランを立てられて、議論させていただければ良いと私は考えている。
- 金井部会長：** 一通り意見をいただいたので議論を集約する。全体的にまず1つは、「戦略プラン」とは一体何をまとめたらよいのかという点である。つまり、個別の計画事業をピックアップし、まとめたものであるのか。あるいは、P委員が発言されたように、ある程度の予算を戦略プラン枠といった形で分割し、その中である特定の施策を実行するのか。あるいは、骨太な方針として区政の重要な戦略イメージを出すのであれば、むしろ区側から積極的にプランを提案していただかないと議論にならないということもある。なお、前回の議論では、施策体系にうまく乗らないものをまとめたプロジェクトなのかとの意見もあったが、そうではなく戦略という意味では大局方針なので、全体を貫くものであるべきということであった。その場合は、今までの体系の施策別の縦割りの体系と、それをつなぐ横割りのマトリックスとは別の次元だとい

うことになる。しかし、これは基本計画の一部であるので基本構想の大方針が出ている以上、そのマトリックスとの違いが何であるかを明らかにし、議論していくのは難しい点もある。さらに言えば、この議論をするのは果たして部会が妥当なのかということもある。本来、全体会で実施した方がよいのかもしれない。また、そもそも「戦略プラン」としてあえて出す必要があるのかどうかという点である。P委員が指摘されたように、粛々と基本構想から議論してきているので、その体系に基づき、すべての事業をしっかりと行っていけばよいのではないかと指摘を受けている。2点目は、何を重視するのかという内容の話である。F委員、H委員から、ファミリー層が住み続けられる、あるいは住みたくなるような施策を戦略プランに盛り込むべきとの意見があった。このような取りだし方は、施策を個別に抽出するものでもなく、また、全体を貫く横系にもならないものであるが、例えば、ファミリー世帯を優先するという大きな方針を出すとする、これはかなり重要な意味を持つこととなる。1つの例であるが、ファミリー世帯を重視するということは、単身世帯が半分を占める豊島区では、まさに社会の情勢に抵抗して、あえてファミリー世帯を重視するということになる。豊島区のように、単身世帯が多く、昼間人口が多い地域においては、ファミリー世帯、定住世帯は少数派であって、そもそもそういう対象に区政が重点をおくべきなのかという指摘を受けることにもなる。区政は、ファミリー世帯ではなく、単身世帯、外国人、観光等の来訪者、労働者に目を向けるべきではないかということもあり、これはかなり重要なポイントになる。特に大都市の場合は慎重な判断が必要である。そういう意味でファミリー世帯を重視するという考え方は、きわめて重要な戦略的方針を示している。現在の議論では2つの論点があるが、1つはやはりまず事務局サイドとしてもう1度、「戦略プラン」をどのように位置づけているのかを明確にすることである。基本構想や基本計画を策定しながら、その中に戦略プランを盛り込む必要があるのかどうか。事務局としてあえて最初にプランの原案を提示せずに議論を始めていることから、むしろそれをこの議論でまとめたいたいということかもしれないが、各委員の「戦略プラン」のイメージが共有されていない。事務局がどのような位置づけをイメージしているのかを明らかにし、「戦略プラン」について委員間のコンセンサスを形成していかなければ議論にならないのではないかと。事務局から説明をいただきたい。

事務局： まず、基本計画の計画事業との関係であるが、確かに基本計画については基本構想を実現するために分野別の政策・施策体系を形成しているので、これがすべて実現できれば、基本構想の実現が図れるというのは、その通りであると認識している。一方、区民が基本計画という冊子を手にとって見たとき

に、政策・施策の方向、計画事業という形で並んでいる。100 ページ以上の冊子では、果たして区はこの基本計画の計画期間内に一体何を重点化していく、あるいは優先的に進めていこうということがなかなか読み取れないのではないかと懸念している。また、何人かの委員から意見が出ていたが、大変厳しい財政状況の中においては、仮に計画事業に位置づけられたものであっても、果たして財源を100%すべて担保できるかという点、難しいのが現実である。そういった意味では、この「としま戦略プラン」として位置づける、仮に施策レベルということにするが、そういったものについては優先的に財源の裏づけをつけていくことも想定される。具体的な形はP委員が指摘されたように、100億円という予算枠という形で取りまとめるかどうかなど、今後の議論になると考えている。やはり計画事業よりは財源的な担保もより厚くされるというイメージをしている。また、S委員から意見があったように、「戦略」という言葉からすると、本区が持っているプラスのポテンシャルは伸ばしていけばよいが、マイナス側にあるものについて、そのまま放っておくと、よりマイナスが大きくなってしまふ点についてはやはり都市政策的な部分で何らかの手を加えてプラスに転換をする必要があると考えている。言葉が適切であるかどうかはわからないが、都市のマイナスイメージを都市の魅力というものに変えていくということは「戦略」として考えている。つまり、事務局としては基本計画の計画期間内に優先的に進める、できるだけ幾つかの施策体系にまたがるもののプロジェクト、あるいは区が持っているマイナスのイメージを転換するような戦略的なもの、こういったものを位置づけ、財源の裏づけも担保し、よりよい将来の地域づくりに生かしていくために「戦略プラン」を位置づけていきたいと考えている。

金井部会長： 事務局側から説明いただいたがいかがか。P委員から感想があればお願いしたい。

P委員： 基本計画の体系は確定しており、基本計画の体系には大事なことが載っている。その大事なところばかり載っている中から、戦略プランに抽出するといわれても何をしたらよいのかわからない。

金井部会長： 確かに大事であるので載せているわけであるが、その中でさらに大事なものということではないか。大事なものを選べるくらいであれば、他の計画事業はいらないのではないかとと言われると困るが、他の委員から意見はあるか。

P委員： この議論は、第1部会、第2部会の担当は関係なく、すべての体系について議論するということがよいのか。

金井部会長： H委員から意見はあるか。

H委員： 第2部会でも同様の議論を行うのか。

金井部会長： 第2部会でも同じ議論をメンバーだけ実施するということになると思うが。

事務局： その通りである。

H委員： 私は「戦略プラン」とは、戦略という言葉の持つ意味は別として、重点化することだろうと認識している。そのためには網羅的な基本計画の施策の中である種の偏り、厚いところと薄いところが発生するのは仕方がなく、むしろそれをすることによって、豊島らしさというものができるという認識である。しかし、そのためには偏ってもよいというコンセンサスがないと、大変な間違いになってしまうので、ここは非常に重要な判断であると考えているが、ある種の偏りがなければ豊島区らしさはできずに、豊島区に住みたいという人心を惹きつけるに足る方向にならないと考えている。私はこのように理解し、その方向の1つとして、ファミリー層に関して意見を申し上げた次第である。つまり活気のある豊島区は、居住者、来訪者がたくさんいるということだけでなく、まちの路地の中に生き生きとした子どもの声が満ちているようなまちが活気のあるまちだと考えている。もちろん、物がたくさん売れることもよいことには違いないが、まちの活性化は商業的な活性化だけでなく、住む人に毎日が楽しいと思わせるに足る施策を盛り込みたい。第2部会でも、また違ったアイデアがあるかもしれないが、それは違った面から取り上げるということであるので、それはそれでよいと考えている。例えば、前にも一度第2部会にオブザーバーとして参加した際に申し上げたが、「みどりのネットワーク」という施策がある場合に、私は豊島区らしさを創出するために、豊島区全体を公園化するというアイデアで、道に面したところにある木々に名前のわかるものはなるべく名前をつけてもらえないかと提案した。また、予算をかけずに、豊島テレビなどとタイアップし、プロパガンダしていただけないかと提案した。道を歩く人が知らない植物の名を知ることは楽しく、例えばそのようなことも考えられるのではないかと提案した。予算をかけずに、何とかアイデアでよくできないかと考え、申し上げている次第である。ファミリー層の議論にしても、単にファミリー型マンションを増やせばいいという意味ではない。

金井部会長： ありがとうございます。今の意見は、確かに「ファミリー」を広く捉えているという意味では戦略的な形である。個別の体系でもなく、今までの横割りにもならないという点で、1つの重点化のイメージであると思われるが、その場合には偏りという問題が出てくる。つまり、厚くするところと薄くするところが出てくるということである。簡単にいえば、全部ひかり号のように速いけれども、その上にのぞみ号を設定するということである。のぞみ号ができた以上、結果的にはひかり号は遅くなることを認めるかどうかということであるが、他の委員はいかがか。ここで掲げた計画事業はみな同じ重要度であるので、優先順位をつけてはいけないというのも1つの考え方である

が。つまり、優先順位をつけるということは、計画事業に載ったとしても、それは単に掲載されているだけであって、優先されていないということを含むことになる訳である。果たしてそれで意味があるのかどうかについて当然問われるわけであるので、それも含めてどのように進めていけばよいのかを考えてみる必要がある。

S委員： 私は今の意見を伺いながら、少しずつ整理していけるかもしれないと考えているが、まず「戦略プラン」の対象は基本計画の計画事業である。これは全分野にわたって、いずれも重要な施策、また必要な施策である。これをすべて計画期間内に推進していかなければならないわけであるが、そのためにどうするかを考えるのが大局的な方策ではないか。この考え方において、本日事務局から提出された資料があり、また、部会長から話のあった優先的に取り組む施策があるわけである。これらは基本計画を効果的に進めていくための方策としてのいわばリーディングプロジェクトという意味合いなのではないか。その1つの例として、ファミリー層の話が出ており、ファミリー層が豊島区に住むことによって人口構成が変わり、それに伴い当然のことながら、すぐに効果が出ないかもしれないが、重要な財源である住民税の歳入向上も期待され、それにより他の施策も円滑に推進できるということになる。このように1つ施策として進めるわけであるので、これは何も跛行するというような性格のものではなく、位置づけとしては基本計画はすべて大切なわけであるので、それらを効果的に推進するための「戦略」として捉えるべきなのではないか。そして、その戦略の中身は何かといえば、ファミリー層の話やまちを活性化していくということである。そのためにどういうものを展開していくのかということもプランとして載せてもいいのではないか。

金井部会長： ありがとうございます。今の意見は大変重要な指摘である。つまり、跛行してどれを優先するかということではなく、全部大事なものであり、それを効果的に推進するための方策として、どこをリード役としてやっていくかということである。先に行くということであって、先に行ったものを優先したという意味ではなく、それを先に実施すると他を生かすのに意味があるという理解である。どれを優先して、どれを軽視したということではない。そのような位置づけで戦略プランを考えたらどうであろうかという意見であると理解したが、もし間違っていれば後で指摘いただきたい。他の委員から「戦略プラン」とは一体どういうものを含んだらいいのかという意見はあるか。

N委員： S委員が指摘された事項と本日の資料にある9つの「課題等」をみるとこれらに取り組むような事柄が大事なのかなと感じている。次に、「文化都市・豊島」としての、文化、ユニバーサルデザイン、誰に対しても優しいまちなど、左にあるキーワード「文化」「都市再生」「協働」「行財政改革」のフィ

ルターを通しながら、右の課題等を抽出することが、戦略プランの柱を構成するものになっていく気がしている。

F委員： 本日の資料にある「課題等」として挙げられているものを踏まえながら、本日の議論を伺っていて思うところがある。参考資料2として配られている「地域づくりの方向」の7つの大きな柱があるが、この7つの中で緊急性、必要性、優先性、将来性、効率性ということを考え、どこにポイントを置かかということを考えていくことが、H委員が発言されていたように、少し力を入れる部分ということにもつながっていくと思うが、このように考えてみるのもいいのではないか。「地域づくりの方向」の7つの柱と課題等で挙げられている項目を踏まえて、緊急性、必要性、優先性、将来性、効率性という選択の視点に立ち、どこをまず重点的に取り組むべきかを判断し、豊島の地域性をもっと出していくことを考えていければよいのではないか。

金井部会長： 整理すると、分野別体系の7つ柱の中から選んでいってはどうかということか。例えば、幾つかの選択の視点、フィルターを通過し、第7項目の伝統文化関連を特に重視しようということになれば、これを優先して、1～6よりは7を頑張るというように考えるということである。そうすると、地域づくり方向のレベルとなるので、政策、あるいは施策、ましてや計画事業よりはるかに上のレベルということになるが、このような重点の置き方ではどうかという意見であった。他の委員はいかがか。各委員の意見は非常に重なり合いつつ微妙に異なるので、なかなか集約しにくいというのが率直な印象であるが。

H委員： 例えば「魅力と活力にあふれる、にぎわいのまち」という柱があるが、F委員の指摘は、その中で具体的に何を具体化するかということを考えてほうが良いということか。例えば、これまでの審議会においても発言してきたが、巣鴨はいわば大勢の人が訪れる観光化されたポイントとして位置づけられており、池袋は通過地点として、巣鴨は目的地として来るという違いがある。ところが、せっかく目的地である巣鴨に来られた善男善女がそのまま区外に帰ってしまっている。そういった観光客をもう少し豊島区に滞在してもらえようようにすべきではないか。そのために、例えば浅草ロックのような大衆演芸のようなものを持ってきて、小屋がけのようにしてみたいかがか。旧中山道の通りには社会教育施設があるので、そういった場所を使い、南大塚で実施しているような演芸活動をやってはどうか。このように、具体的に行動する何かは戦略ではないかと私は考えている。単なるスローガンではなく、具体的に行動するものを取り上げなくてはならないのではないかと。

金井部会長： H委員から戦略プランの例示をいただいたが、6つめの柱の中でいえば、巣鴨地区により長く滞在してもらうためのプロジェクトを戦略的に立ち上

げようという意味になると、6（1）①か②に入るのかもしれない。①のほうには巢鴨・大塚地区中心市街地活性化事業という計画事業案が記載されているが、これがH委員の提案のようにプロジェクトになっているのであればそれは戦略となる。そうするとこれはかなり具体的であり、戦略プランはスローガンではなく具体的にやるということを明示すべきものというレベルになる。しかし、それは単発で終わるという意味ではなく、いろいろな広い意味での戦略的な意味を持つということであるが、仮にそうだとすると、まさに計画事業の特出しにかなり近くなっていくわけである。あるいは、現在の計画事業案と必ずしも一致はしないが、巢鴨地区における活性化プロジェクトということで、それにまつわる計画事業を全部束ねたものが戦略プロジェクトになるのではないか。F委員、H委員の指摘はどちらもあり得る選択であり、この議論をまとめていくというのは非常に難しい作業である。一方、この基本構想全体を進めていく上で、どこから取りかかっていくことが効果的か、例えば、予算がないのであれば、資金を捻出する施策を先に打つことが戦略的に非常に重要なことである。いずれにしても、議論を集約することは難しく、おそらく事務局側にもそこまでのアイデアが確立されていないので、このような形で資料が提出されていると思われる。そこで、もしよろしければ位置づけはいろいろな形があり得るということを含めた上で具体的にどれを重視するかという具体的な話にいったん入っていったらいかがか。現在、テーマとしてあげられているのは、H委員が先ほど発言された、巢鴨地区における重点的プロジェクト、また、ファミリー世帯への対応などがある。それから、財政的な課題、行革も含めて実施しなければならないという指摘もある。それは横割りの共通する体系ではおさまらない、もっと重要な意味を持っているという指摘もあった。このように、内容のレベルで特出しすべきものを挙げていき、それらのレベルが結果的に戦略プランのレベルになることもあり、そのレベルがたまたま個別の計画事業レベルであれば、そこを特出ししたということにもなる。財政の問題が大事だといえ、それは基本構想と基本計画の中間くらいの位置でも非常に重要なテーマになるので、具体的にどれを重点、大事だということについて少し意見をいただきたいと考えている。これまで出されているテーマは、先ほども申し上げたように、ファミリー世帯について、それから巢鴨等に滞在してもらうような観光活性化という話がある。あるいは行財政、特に財政をきちんとすることこそが基本計画を実現するための最も基本的な戦略としてあるべきではないのかとの意見もあった。この辺についてもう少し具体的なイメージで、重視したい、重要なものにしたいというものがあれば発言をいただきたい。個人的には先ほど申し上げた、ファミリー世帯を重視するというのは大変大胆か

つ重要なアイデアと考えている。「にぎわい」についても、池袋の駅前で遊んでいる若者がにぎわうということだけではないという意味を含むということである。これはきわめて重要な価値選択を含んでいて、かなり重要な選択である。つまり、どういう人を大事だと思うのかということであり、これを露骨に表現すると、そうでないと言われた人から怒られるが、物事は選択であるという意味でいえば、何を重視するのかということになる。ファミリー世帯を重視するというのは、1つの考え方であると思うが。

H委員： 私の周辺の区民の意見には、数年後に渋谷まで開通する地下鉄13号線について、豊島区はより便利になるが、商店主は豊島区が通過地点になってしまうことを懸念している。渋谷まで開通すると、例えば、若い女性たちはエンドスポットであった池袋から渋谷へ拠点を移し、渋谷で洋服を買ったり、お金を落としたりすることになる。池袋にお金が落ちなくなるということも池袋の商店主の人は懸念しており、私も同感である。地下鉄が青山を通過するようになると、私の周辺の女性は表参道へ行くという意向を持っている。つまり、豊島区がエンドスポットになるような仕掛けをつくり上げないと、豊島区にお金が落ちなくなるという恐れがある。池袋の発展・活用というのは、ある種の限界のところに来ている気もしている。そうであれば、他の地域に注目し、例えば、巣鴨を浅草六区式にして、巣鴨から若手芸人が育つというイメージが作り上げられれば、旧中山道という細い道筋1本だけではなく、一種の猥雑かもしれないけれども1つの文化の花が咲くのではないかとすることも期待できる。それは大衆演芸かもしれないが、そういう文化が成立する地盤がないわけではない。ある区会議員からその対象として椎名町はどうかと訪ねられたことがあるが、私は無理であると答えた。椎名町のそばで私は教師をやっていたのでよく町の雰囲気わかるが、あそこはそういう町ではない。それぞれのまちにはそれなりの雰囲気や性格がある。巣鴨は、何か手つかずで残っている宝庫であると感じており、うまく開発すればという期待が持てる場所のような気がする。特に新地下鉄の開発が、逆に豊島区の地盤沈下を招くのではないかと懸念を感じている。上野もすっかり浅草への通過地点になってしまっている。

N委員： 先ほども申し上げたが、課題はわかっている、そのまま放っておくというのはいかなるものかと考えている。課題を解決していく中で大事なものが見えてくるのではないかと。H委員のまちについての指摘は的を射ているという認識であるが、課題の中をみると都市の地盤沈下、都市間競争の激化などと記載されているのである。例えば、本区も名乗りを上げているといえる第2東京タワーの誘致、第2東京タワーではなく、日本タワー、日本国タワーとい

った名称にさせていただきたいが、そういった形で具体的に課題がわかっているのなら、それに取り組む中で、しかも豊島区の中だけでなく、他の地域から何を引っ張ってこられるかということを考えていくのが、まさに戦略なのではないか。そこに、まず文化というものを高野区政は押し出しているわけであるので、それをかければよいし、都市再生をかけてもよい。また、区民との協働、行財政改革との関連性もどんどん見出していったらいいのかなという気がしている。先ほど他の委員から分野別体系の1～7の「地域づくりの方向」の中からピックアップしていくという提案もあったが、やはり課題というのがわかっているのであれば、それを置いていくというのはいかがなものかと私は思う。昨日、サッカー日本代表の試合が行われていたが、オフト、トルシエ、ジーコ監督と変遷してくる中で何が変わったかということ、試合が終わった後、よくオフト監督の頃は選手が一人一人の感想で、「きょうの試合で、また自分が取り組むべき課題がわかりました」、「また課題に取り組みます」と発言し、それを進めてきて、ようやくジーコ監督の時代になって、「また課題が見つかった」と発言する情けない選手が減ってきており、それが実力の裏づけになっているのかなと私は受けている。つまり、豊島区として課題があつてわかっているのであれば、これに取り組む中に戦略というものが高まっていくものが出てくるという思いがあり、こちらのほうからアプローチしていったらいいのかなという気がしてならない。

金井部会長： 例えば、N委員から提案いただいた第2東京タワーならぬ日本タワーの件であるが、これは計画事業としてはどこに盛り込まれているのか。これは誘致であるので計画事業には入らないということか。しかし、これが重要プロジェクトとするのであれば、基本計画には記載すべきではないか。しかし、誘致という他人任せの事項をプロジェクトにしていいのかどうかは議論が必要であるが、載ってないものでも、あえて特出しするというのはかなり1つの重要な示唆であると考えている。

Q委員： 以前にも指摘したが、第2部会の「池袋副都心の再生」の中に「サンシャインシティ周辺の低未利用地については、民間投資の誘導を図り、活力ある池袋の拠点を形成します」と、はっきり具体的なことは書いていないが、かなり頭出しが明確であり、方向性が定まった表現が入っている。まちづくりの話についてもH委員が発言された通り、確かに13号線地下鉄が開通すると池袋が通過点になってしまうという懸念はあるが、既に新宿や渋谷、汐留、品川に比べて豊島区は地盤沈下している。これは区長が常々指摘してきていることであるが、だからLRTが必要、東京タワーが必要、池袋副都心開発

が必要という流れで、人を外から集めてくるまちづくりを池袋で再度行うといっても、既に恵比寿や汐留などが完成しており、現状以上に集客するのは非常に難しい状況である。既に出遅れているのである。そういった状況で、外から人を呼んでくるまちづくり、開発ということでもいいのかという疑問を私は抱いている。H委員の具体的な提案を伺っている中で、少しずつ見えてきたが、「としま戦略プラン」の中には一定の開発を行っていかうという考えを、本当は具体的に事務局も持っているのではないかと思わざるを得ない。これまでの議論でそういった考えが出てこなかったのも、改めて出したいというようにはっきり言った方がわかりやすいのではないか。ただし、そうであるとすれば、その辺のところははっきり組み立てをしていくべきではないか。

金井部会長： 一通り、各委員が何を大事かと思うかをはっきり発言していただき、例えばQ委員のように、誘致するのはやめるべきであるという考え方も1つある。外から人を呼んで来るまちにするのか、あまり外から人を呼ばなくても通過で構わないと考えるのか、これははっきりいってしまえば選択の問題である。つまり、池袋は通過のまちになって結構であるというのか、池袋は通過のまちではなくてエンドポイントにならなければならないと考えるのか。あるいは、エンドポイントは池袋でなくて巣鴨にシフトしていくべきなのかを含めていろいろな議論が必要である。仮に最終的に通過では困るということになれば、どういうプロジェクトが戦略的に必要なのか、リーディングプロジェクトとして何が必要なかを議論することになる。それはLRTかもしれないし、タワーかもしれない。あるいはあえて言えば、場外車券場かもしれない。それが何かはわからないが、何かを打ち出していくということになる。同じような意味で、ファミリー世帯を重視するのか、それとも、外から来る人を仮にファミリーで住まない人を誘致するのを念頭に置くとすれば、ファミリー世帯ではなくて外から来る人に目を向けた区政を選択するのか、あるいは両者にバランスをよくという言い方になるが、そういう選択をしたということになる。このような選択をするのであれば、それはかなり戦略的な選択であると私は考えている。通常、総合計画は総花的になりがちであるので、これはかなり大胆な発想になる。もう少し各委員から意見をいただければと考えているが。

S委員： 私は先ほどのN委員の発言に賛同している。資料I-6-2に、目指す方向として、「価値あるまち」「住み続けたいまち」「住みたいまち」とあるが、従来であると住みなれたところに住み続けたいという考え方がベースにあり、そのためにどういう施策を展開するかを考えてきた。これからもそれは必要であるが、新たに価値あるまちや住みたいまちといったものを創造していくことは大切であると思う。そのために区が抱えている課題はこれだけあ

るということであるので、ここからアプローチをしていくというのがN委員の考えであると思う。その中で、既に出てきているファミリー世帯の問題や都市間競争の問題が出てきているのである。この課題について意見交換することによってそれなりのものが見えてくるのかなと感じている。

金井部会長： ありがとうございます。既に具体的な意見として、ファミリー世帯の話、都市間競争、あるいは都市内競争の話が非常に重要であるとして挙げられている。その上で何をするかまで書くかどうかという問題は別途あるが、もしこれでまとめ、都市間で地盤沈下して沈滞したまちでは困る、やはりファミリー世帯を重視しなければならないと打ち出すのであれば、これはかなり重要な問題になると思うが、これら以外にもいろいろ課題は記載されているので、それらをどうするのかについても考えていかなければならない。

T委員： 私も課題の整理をしていくことから出てくるものを戦略プランとして盛り込んでいくことが良いと考えている。課題を整理されたものが、ある意味では分野別の体系にもなっているということも一方と言えるかと考えている。ファミリー世帯の減少は課題の中にも大きく掲げられており、これは1つの大きな戦略になる。ファミリー世帯を重視することになると、教育や子育て支援などに重点を置くことにつながってくる。また、ファミリー世帯を重視するということは、一方でまちの状態もきちんとしていないといけないうことにもなる。生き生きとした文化と都市の問題が大きくかかわってくるのではないかと。課題を整理していくと、やるべき方向が見えてくるのではないかと考えている。

金井部会長： ありがとうございます。課題として資料にいくつか挙げられているが、ここに挙げられていない課題も含めて戦略的に解決しなければならない課題を考えていかなければいけない。F委員から何か追加の意見はあるか。

F委員： やはり定住人口をどう増やしていくかが大きな課題であると考えている。定住人口が増えるということは、地域で日常的な買い物をする人が増えるので、商店街もにぎやかになり、定住する人がより便利になるような出店なども想定されるので、定住人口の増加ということが1つ挙げられると考えている。もう1つは、新しい事業に取り組んでいくことも必要であるが、巣鴨の商店街を含めた地域というのは既に全国区であるので、そこにもっと力を入れ、伝統的なことを大切にしつつ、新たな、若い人も呼べるような地域にすることを同時に取り組み、これら2つを考えていくことは必要なのではないかと。あえて池袋という大きな都市でいうと、新宿・渋谷などの大きな繁華街と比べれば当然負けてしまうので、同じようなスタイルのところ競争するということを選ばず、もう少し昔ながらの歴史のある地域を持っているので、そういったところを重点的にしながら、どう地域を再生していくかということ

を考えてもいいのではないかと考えている。

金井部会長： ありがとうございます。定住ファミリー型の区を目指しつつ、全国あるいは首都圏から人が集まってくる池袋の再生、新宿や渋谷に張り合える池袋の再生というのは、ある意味で矛盾し得る可能性は非常に高い。地下鉄 13 号線が開通するのであれば、若い世代には渋谷に行ってもらい、池袋はもっと定住する人、別の世代を念頭におこうという考え方もある。都市間競争も同じフィールドで競争するのではなくて、違う競争軸を立てようということも戦略としてはあり得る。しかし、池袋敗北を認めてしまってもよいのか、そのような情けないことを言っているのかという意見があるとするならば、池袋はむしろてこ入れしなければならぬという話になる。都市再生が汐留、丸の内などさまざまな地域で行われているのだから、少なくともそれに出遅れないくらいでなければ、もっとさびれてしまうという懸念があり、それに対応することは戦略上やむを得ないのではないかとかという判断もがあり得ると思う。まさに大事なものは何かというのを考える議論であるので、いろいろ意見を出していただかないとならない。

Q委員： 私も、まちの活性化という言葉には反対ではないが、豊島区や池袋の 1 つの特徴は、商業地、繁華街のすぐ外側、至近距離に住宅地が広がっていることが挙げられる。これが池袋らしさともいえるものであるから、部会長が例示された通り、出遅れてしまったのであるから、慌ててほかを追いかけるのではなく、定住指向でいくというやり方も 1 つ方法ではなかろうか。豊島区、池袋に住んでいる人が本当に快適であると思えるまちをつくるということ言えば、目指す方向の中の「住み続けたいまち」の中に入る。ただし、難しいと感じているのは、どれを優先すべきかといったときに、その人の立場や経験などがどうしても影響してしまう。その中で、私が最も心配しているのは、大きな声ばかりが通ってしまい、小さな部分が切り捨てられていってしまうことである。本当に何が大事なのかということはいろいろ意見を聞かせながら挙げていかなければならないと改めて思っている次第である。私も一応、住み続けたいまち、子育て、ファミリー世帯というテーマが大事であると発言したが、その意図としては、他のテーマが重要でないというニュアンスは全く含まれていない。そこで、どのように選択していくかを考えると非常に難しい問題である。ただし、子育てについて得しすれば、かなりいろいろな部分に波及すると考えている。つまり、夫婦に子どもという世帯だけがファミリー世帯ではないので、お年寄りもいて、働く若者もいるかもしれない。そういう人たちも含んで「子育て」のイメージを持てば、住み続けたいまちという中でいろいろな施策に関連するので、優先課題として打ち出させるかもしれないと考えている。一人暮らしのお年寄りや学生はどうなる

のかと個別に挙げていくとこれは難しいので、大変難しいと感じている。

金井部会長： 私自身の誤解を改めて理解したが、ファミリー世帯というのは夫婦に子どもという形態だけではないということである。夫婦に子どもというのは、きわめてジェンダーバイアスの概念であった。私が誤解していた。ほかにはいかがか。優先するテーマをここで抽出するのは難しいというのは確かであるが、ある意味で審議会という組織は優先項目を考えるために集まっているのである。優先項目をつけないと判断するのは、考え方としてあり得るが、何十万という区民がいる中では、どこかで誰かが優先順位をつけていかざるを得ないので、その1つの機関として審議会があるわけである。そういう意味では優先順位をつけるように努力するというのは1つの重要な態度であると私は思っている。また、既に計画事業や施策を記載している時点で優先してきているわけであるので、さらにそれら色づけするのか、どのように色づけすればよいのかということなのではないか。

H委員： 本日の資料に記載されている課題等の中に私が発言した内容はすべてであるが、この中でも優先順位があると私は感じている。例えば、都市の脆弱性、であるが、私の住んでいた上池袋には我が家がまだあるが、薄汚い木造の小さい家である。今度大地震があった場合には、全焼の可能性もあるし、そもそも倒壊の危険もあるが、これは個人の所有物であり、簡単に行政が支えることはできない。しかし、都市の地盤沈下や都市間競争の激化ということに対しての施策は、比較的すぐ住民の手がかけられるところがあるということも事実である。また、一方で超少子高齢社会の到来といったテーマのように長期的には絶対やらなければならないが、豊島区だけが対応できるような問題ではない。こうした視点で列挙された課題をみてみると、既に優先的に、比較的楽に取り組める課題と、基本的だが非常に重い課題があり、そのウエイトはまるで異なる。そういうことを考えれば優先順位はおのずから出るのではないか。

金井部会長： おのずからどれが優先されるのか。

H委員： 例えば、超少子高齢化社会の到来に対しては、豊島区自体ではどうしようもない。

金井部会長： これは優先順位から落ちるということか。

H委員： 例えばそういうことである。トップには来ないということである。ところが、都市間競争の激化と表裏をなすが、池袋の地盤沈下や、ファミリー世帯の減少といったテーマは、すぐに豊島区が課題として取り組む、あるいは取り組みやすいものである。そして、目に見える成果をある程度上げることが期待できるということである。やはり成果が上がらないことは優先することはできない。行政の限界性という課題はよくわからないが、財政上の問題がある

ということかと理解している。それから、「低成長あるいはマイナス成長の時代へ」というのは、豊島区が何か対応できる問題ではない。こうしてみると、豊島区が単独として取り組まなければならない課題というのは、羅列されている中でもおのずから整理される。もし、N委員が提案されているように課題等から戦略プランを練り上げるとするならば、ここにおいて必要度あるいは区が積極的に取り組んで成果を上げることが期待できるものを先に優先として考えるべきである。

金井部会長： N委員はいかがか。この課題の中で豊島区が取り組めるもの、あるいは必然的に無理であるものが混在しているという指摘であるが。

N委員： 私は、まず優先すべき点は行政の限界性をどう区民に伝えるかという点にあると考えている。その中で、低成長、マイナス成長の時代で自治体の役割とはどういうものなのか、あるいは持続可能なシステムというものをどう豊島区で構造改革なり、行財政改革してつくり上げていくのか、その中で区民に対する行政サービスをどのようにしていくかということをもまず検討し、その範囲内で民間にできることは民間に、民間にできにくいことや行政がやらなくてはいけないことを行政がやっていくということを出し、その次に先程来議論になっているファミリー世帯の話や少子高齢化社会への対応といった課題が出てくるのではないかと。まずは、行政とは何なのかということをしかりと区民に伝えていかないといけないのではないかと。

金井部会長： 今の意見は大変貴重な意見であった。まず具体的な課題の議論に入る前に、行政あるいは区がやるべきことをしかりと明らかにした上で区民に説明すべきではないかという意見である。ファミリーを優先するか、しないかを考える以前の問題として、まず区あるいは区行政は何をするのかということが戦略プランに入るべきではないかという意見である。ある意味では、基本構想よりさらに上のテーマになってしまうかもしれないが、基本構想でここでやると言った上で区は何をするかという意味でいえば、戦略プランレベルに入るテーマである。こういった課題も非常に重要であるという意見であるが、他の委員はいかがか。戦略プランについて、突然議論をお願いしてしまったため、意見をいただくのはなかなか難しかったとは思いますが、とりあえず本日いただいた意見を大まかにまとめると、1つは資料の課題にあるように、都市の地盤沈下、あるいは都市間競争、都市内競争も含め、豊島区あるいは池袋・巣鴨をどうしていくのかという論点である。巣鴨はやはり全国区のポテンシャルを持っており、それに対して池袋は若干他の新都心、副都心よりは劣位にあるという認識に立ち、池袋はどうすれば勝てるのか、あるいは負けないで済むのか、あるいはある程度の沈下で抑えられるのか、さまざまなレベルでの問題の捉え方がある。その中で、さらに具体的なプロジェクト

トまでどう考えていくのか。それは計画事業にあるものなのか、計画事業にないものも含めてなのかというのが1つの大まかな意見だったのではないか。その上で池袋の特徴は、住宅地が近接しているので、汐留のように大きなビルを林立させることが魅力の向上にはならないといった、様々な池袋の捉え方があった。広い意味では都市がそのまま沈下してしまってよいということはない。どういうふうにするのか、それに対して戦略が求められているのかというのが1つ大きく集約できるのではないかと思う。それから2つ目は、ファミリー世帯あるいは定住人口の促進が現在の豊島区において具体的に取り組み、かつ近々の課題としてはかなりの合意が得られたのではないかという点である。ファミリー世帯の定義というのは、私は誤解していたが、ファミリーあるいは定住を重視していくということは同時に、先ほどの都市の競争力を考える場合においては、どういう相互関係を持っているのかというのは大いに整理しなければならない。これらが両立するように考えていくのか、あるいはゾーンを分けて競争のための地域と定住のための地域を分けるのか、いろいろな考え方があがるが、そういう意味ですべての計画事業やすべての施策をファミリー定住人口という点から捉え直して戦略的に重視していくということはあり得るのではないかとこの意見であった。そして3番目は、H委員、N委員からいただいた意見であるが、豊島区が取り組めるものは何かというのを考えずして戦略というものはあり得ないのではないかという点である。取り組めるもの、取り組むべきもの、目に見えるもの、目に見えないものいろいろあるが、まず大前提としてそれを仕分けることが戦略プラン上のレベルになるのではないかという提案である。その上で取り組めるもの、かつ目に見えるものは具体的な戦略プランに盛り込んでいき、できないものについて、あるいは取り組んでいけないもの、どうしようもないものについては、区としては取り組むことができないとはっきり意思表示をすべきであるという意見であった。あるいは、区として取り組むべきものではない、例えば、民間でやるべきものとして木造密集地の改善を捉えるのであれば、それは民間にまかせるという方針として示すべきであるということである。具体的なプロジェクトの内容の議論になると、違いが出てくるとは思うが、大まかに言うと、各委員の関心はこの3点に集約されるのではないか。より詳細の意見については、議事録の段階でもう1回読み直しながら振り返り、提出された意見として全体会に報告していくことになる。もう1回そこで議論する場があるが、基本的には今3点に要約したような内容が当議論の全体的なイメージなのではないかと考えている。つまり、例えば、定住人口を拡大するという場合には、定住人口を増やすためにマンション建設を促進するのか、それとも、低層住宅地に住んでいる定住人口を増やすため

に、商業地域を減らし、住居地域を増やすなど、いろいろな考え方もあり、戦略プランを詰めて、さらに細かい事業とか読み直していく場合には大きな議論をしなければならない。そのため、とりあえず今回は大まかな集約ということにさせていただければと考えているがよろしいか。ありがとうございます。それでは大分時間が迫ってきているので、本日出席いただいている高野区長から一言お言葉をいただきたい。よろしくお願いします。

高野区長： 各委員の熱心な審議、ありがとうございます。基本計画、基本構想は区行政の根本の基本的なものである所以非常に難しいものである。また、様々な議論の中で案をまとめていくということは大変であるということは今さらながら改めて感じている。私がこのような審議の途中でコメントするのは差し支えがあると思うが、1点だけ私自身の思いを言わせていただきたい。本日の資料Ⅰ-6-2には「としま戦略プラン」により目指す方向の中で、「価値あるまち」「住み続けたいまち」、そして「住みたいまち」を創造するとなっている。これらは私がコメントしなくとも、現在の豊島区の置かれている状況がまさにこれらを必要としているのである。例えば、「価値あるまち」というのは、最近、公示価格が発表されたが、全体的には都心の地価は下げ止まったと言われながら、残念ながら、商業地は都内で3番目、そして住宅地が5番目という大変大きな下落率を豊島区は記録しており、そういう面では地盤沈下が激しい地域という現状である。それから、「住み続けたいまち」では、残念ながら平成15年は都心回帰、人口が都心回帰と言われながら平成15年のデータでは23区で他の22区は全て人口が増えているのに対し、豊島区だけなぜか人口が減少している。これは一時的な現象ではないかと思うが、残念ながら住み続けたいまち、これも非常に大きな危機感を感じている。また、「住みたいまち」において、これから豊島区に住みたい人を惹きつける都市の魅力、豊島の魅力については、例えば、豊島区内には駒込、巢鴨、大塚、池袋、目黒という5つのJR駅があるが、JRの全国の乗降客データによると、平成3年から平成13年の10年間でこの5つの豊島区の駅が全て、増えるのではなくて減っているほうのベスト10に入っているという状況であり、まちとしての魅力が失われているという危機感を抱いている。このような状況を事務局では恐らく念頭に置きながら、これからの豊島区、これからの10年後、あるいは基本構想である25年後という将来を見越した形の中で、現在の「価値あるまち」「住み続けたいまち」そして「住みたいまち」をつくっていくテーマが掲げられていると私は認識している。確かに住んでいる方々を主体とした基本計画も必要であるが、同時に昼間人口を42万人有する豊島区では、昼間人口の方々もここで生活、商業活動を行っており、これら両者を両方あわせるのは非常に難しい。豊島区は複合都市で

あり、両面を持ったまちであるので、これからの豊島区の目指す方向は非常に焦点が絞りにくいということも私自身も強く感じている。このような背景の中で、委員の皆様にはさまざまな角度からこの現状の豊島区を分析すると同時に、これからどういう豊島区をつくっていくかという論議をいただきながら、まさにこれからの豊島区の基本計画をつくり上げていただきたいと思います。それをしっかり踏まえて、私もこれからの豊島区づくりに努力をしていきたい。そんな思いでいるので、各委員の議論を期待申し上げ、またそういう中でしっかりした豊島区の基本構想を、基本計画をつくり上げていただくことを心からお願い申し上げます。あまり私がコメントをすると、様々な形で影響があるので、まだまだ審議中ということもあるので、ぜひ遠慮なく事務局にいろいろな資料等々も示唆いただきながら、事務局が手伝いをしながら、思うことをどんどん審議できるような分析もさせていただきたい。そんな思いを込めて、限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

金井部会長： どうもありがとうございました。人口が減っている、来街者も減っている。つまり、定住人口も来街者も減っているという状況であり、それが意味で公示地価の下落に反映しているという非常に具体的な話をいただいた。この状況をどうしていくのかということがこの戦略プランの1つの大きな目標になるかと考え、話を伺っていた。以上で予定された議事は終了したので、事務局より最後に連絡事項をお願いします。

事務局： 次回以降の予定であるが、明日の第2部会での審議の状況を見て、会長、両部会長と相談し、8月は開催予定はないので、9月に全体会、あるいは部会の開催を予定させていただきたいと考えている。なお、通知については、できるだけ早い段階で差し上げたいと考えている。以上である。

金井部会長： それでは長時間にわたりご審議をいただきまして、どうもありがとうございました。これをもちまして本日の部会は閉会させていただきます。どうもお疲れさまでした。

閉会

会議の結果	<ul style="list-style-type: none">・としま戦略プランについて、継続審議・開催日程 第2部会の審議状況を見て判断。9月に全体会もしくは部会を開催予定
-------	---

提出された資料等	【配付資料】 I-6-1 「(仮称) としま戦略プラン」の位置づけ I-6-2 「(仮称) としま戦略プラン」の背景等 I-6-3 計画事業(想定)一覧
その他	